

生活時間を考慮した空間配置で、快適な住まいに
高の原の家(K邸) 株式会社プラス・ノーブル 柳村武明さん

お互いの通勤を考慮し
土地を選定

なだらかな丘陵地の住宅街の一角にある「高の原の家」は、共働きの夫婦のための住まい。Kさまは奈良、奥さまは京都への通勤を考慮して土地を探していたのだそう。「静かな住宅地で、駅にも近いこと、そして、通勤に便利な、利便性がよい場所を」と考えていました。いくつか候補の中から、周辺に教育施設も充実し、子育てにも適した環境だったことから、この場所を選びましたとおっしゃるKさま。

この「高の原の家」の設計を担当した株式会社プラス・ノーブル 柳村武明さんとKさまは、10年来のご友人。「お互いにバックパッカーとして旅をしていた頃、旅先で知り合って意気投合して以来のつきあいです。私たちのことをよくわかってくれているので、お願いすることになりました」と、Kさまは微笑みます。

「二人とも医療関係の仕事に従事しているため、勤務シフトはバラバラ。朝出かける時に、夜勤明けでどちらかが寝ていることもあるので、物音が寝室に届かないようにしてほしい」と、まずお願いしましたと、奥さま。「そのほかには、家事動線と収納。キッチンと洗面は行き来がしやすいように、隣あわせに」と。あとは、使わないものはサッとしまおうとができる収納力のある空間、ということもお願いしましたとおっしゃいます。



6

- 1 明るく開放的な1階のリビング・ダイニング・キッチン。リビングが1段下がっているため、大きな空間にリズムが生まれます。
- 2 奥さまのご要望通り、キッチンと水まわりスペースは一直線でつながった空間配置に。スムーズに移動可能な家事動線が実現しています。
- 3 お二人の寝室。ほかの部屋からの音が届かないよう配慮されたものとなっています。
- 4 「ワークスペースが欲しい」というKさまのご要望から、大量の書籍を収納できる書棚を備えた書斎スペースに。上部は広いロフトになっています。
- 5 敷地は、東西に緩やかな勾配のある傾斜地となっていて、この立地を活かした空間創造がなされています。
- 6 ダイニング・キッチンで談笑するKさまご夫婦。お二人が揃う休日には、ご友人を招いてホームパーティで盛り上がることも多いのだそう。



2



1

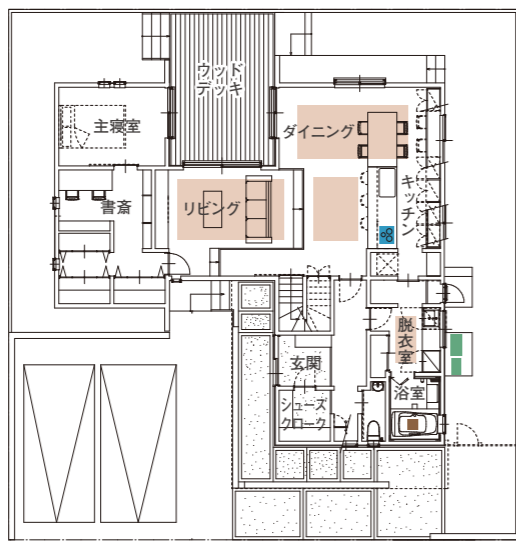


建築家
やなむら たけあき
柳村 武明さん

1976年大阪生まれ。2000年関西大学工学部建築学科卒業。2000年～2001年バックパッカーにてオーストラリア・ヨーロッパを中心に約30カ国を旅する。帰国後、設計事務所・工務店・店舗内装会社勤務を経て2012年12月柳村建築・設計創業。2013年12月株式会社プラス・ノーブル設立。

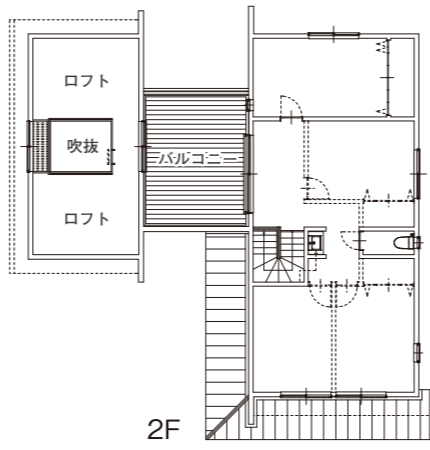
- ・連絡先: 株式会社プラス・ノーブル
- ・住所: 大阪市大正区三軒家東2-2-22 大津橋岡田ビル208号
- ・TEL: 06-6575-9948
- ・FAX: 06-6575-9949
- ・e-mail: yanamura@plusnoble.com

高の原の家(K邸) 縮尺=1/250



- 高の原の家(K邸)
- ・所在地/奈良県奈良市
 - ・家族構成/ご夫婦
 - ・敷地面積/295.23㎡
 - ・建築面積/113.36㎡
 - ・延床面積/168.93㎡
 - ・構造・規模/木造・地上2階建
 - ・設計期間/2015年9月～2016年4月
 - ・施工期間/2016年5月～2016年9月

- エネファーム
- ヌック
- ミストカワック
- Siセンサーコンロ



- 導入ガス設備・システム
- ・家庭用燃料電池コージェネレーションシステム エネファームtype S
 - ・ガス温水床暖房 ヌック
 - ・ガス温水浴室暖房乾燥機 ミストカワック
 - ・Siセンサーコンロ

「敷地が東から西に向かって下り傾斜となっていたため、この高低差のある立地条件を活かし、寝室と書斎をほかの空間と切り離すことを考えました。東側は、1階にダイニング・キッチン、浴室などの水まわりスペースを配置した2階建ての建物に、西側は書斎と寝室のある1段下がった離れのような建物として、この高さが異なる二つの箱を、リビングでつながり一体化したような形状とすることにしました。こうすることで、寝室はほかの空間から離れながらも、ウッドデッキを通して、ゆるやかにつながるものになり、また同時に、基礎工事などの建築コストを抑えることもできました」と柳村さん。

2階は、一部を除いて、将来家族が変化した際に柔軟に対応できるよう、間仕切りのないオープンなスペースとなっています。2階の北側の部屋は、睡眠時間がずれた時に、相手を起さず、別々に寝るためのセカンドルームとして計画しましたが、あまり使ってませんね。以前の住まいと違い、キッチンで作業している音などが寝室に届かないため、主人が寝ている時も気兼ねすることなく家事ができます」と、奥さまは微笑みます。

「家具などもまだ揃っていませんが、これから吟味していきたい」とおっしゃるお二人。カタログを見つめるやさしい表情は、笑顔で満ち溢れていました。

敷地の高低差を活かし
住まう人の望みを叶えた空間を創造



3



4



5